



### 先天性風しん症候群の発生を防ぎましょう

「先天性風しん症候群(CRS)」の発生を未然に防ぐことは、風しんの感染拡大防止策の中で最も重要です。妊娠20週頃までの女性が風疹ウイルスに感染すると、胎児にも風疹ウイルスが感染して、眼、耳、心臓に障害をもつ先天性風疹症候群の児が生まれる可能性があります。

妊娠中は風疹含有ワクチンの接種は受けられず、受けた後は2か月間妊娠を避ける必要があります。妊婦のいる家庭に風しんウイルスが持ち込まれないよう、一人ひとりが気を付けましょう。

#### 女性の方は・・・?

妊娠前に2回の風しん含有ワクチンを受けておきましょう。

#### 男性の方は・・・?

特に30～50代で、

風しんにかかったことがないまたは風しん含有ワクチンを受けていない方は、早めに「MRワクチン」を受けておきましょう。

＊既往歴や接種歴は母子手帳を見て確認しましょう。

風疹含有ワクチンの定期予防接種制度と年齢の関係  
(平成30(2018)年10月1日時点)



図表：国立感染症研究所感染症疫学センター



ホームページからダウンロードできます。 検索... [県北健康福祉センター](#) [センターからのお知らせ](#)